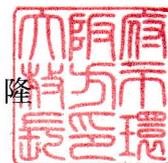


環 指 第 113 号
平成 30 年 5 月 7 日

大阪府知事 松井 一郎 様

枚方市長 伏見 隆



枚方京田辺環境施設組合可燃ごみ広域処理施設整備事業に係る環境影響評価
方法書に対する環境の保全の見地からの意見について（回答）

平素より本市環境行政にご指導・ご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、平成 30 年 4 月 13 日付け環保第 1192 号で照会のありました標記について、別紙の
とおり意見を述べます。

〔連絡先〕

枚方市 環境部 環境指導課

事業所指導グループ 担当：大谷、前川

TEL 050-7102-6014（直通）

FAX 072-841-1315

E-MAIL kankyoushidou@city.hirakata.lg.jp

枚方京田辺環境施設組合可燃ごみ広域処理施設整備事業に係る環境影響評価
方法書に対する環境の保全の見地からの意見について

当該事業は、「可燃ごみ広域処理施設」を枚方市と京田辺市が共同で新たに建設し、ごみ処理を行うものであり、枚方市側においては、穂谷川清掃工場の後継施設となるものである。

今後、準備書作成に係る調査、予測・評価の実施にあたっては、次に示す事項に留意されたい。

1. 総括的事項

現状の穂谷川清掃工場は枚方市の中心的な位置にあり、輸送経路上は最適であったが、京田辺側へ搬入することにより、輸送効率、騒音、渋滞、温室効果ガスの観点からは、現状よりも環境負荷が大きくなる。特に搬入車両から排出される温室効果ガスについては、枚方市の温室効果ガス削減計画とも整合をとりながら、より一層の環境負荷の低減を図ること。

2. 項目別事項

【大気質】

- ・大気質濃度の予測に関して、事業計画地の気象データを用いて算出するのが準備書段階であることから、枚方市側への影響について、プルーム・パフモデルだけではなく三次元拡散計算も含めて十分な検証を行うこと。
- ・工事中の大気質濃度の算出にあたっては、運搬車両の走行経路を十分に考慮すること。

【水質】

- ・沈砂池の性能は滞留時間ではなく、沈降速度と表面積負荷の関係で決まることから、予測については粒子の沈降速度と想定する沈砂池の表面積負荷に基づいて検討すること。

【騒音】

- ・収集・輸送について、主要ルートである 307 号の交通量が急激に増加しないように、収集・輸送の分散化について検討すること。

【動物・植物・生態系】

- ・可能な限り、甘南備丘陵全体に焦点を当てた調査を行うこと。
- ・地域を通過する哺乳類、小動物などについて、定点カメラを使用して移動経路の把握もできるよう検討すること。
- ・定点調査の結果に基づいて、営巣場所、繁殖・行動に応じて新たな定点の設置などの方策も検討すること。
- ・猛禽類の営巣がある場合においては、必要な対策を検討すること。

【人と自然との触れ合い活動の場】

- ・調査手法の聞きとりについて、利用者のみからの聞き取りだけでなく、当該地域で調査・保全活動をされている方や利用予定者（近隣の学校で遠足等で訪れる場合なども想定した）からの聞き取りも検討すること。

【廃棄物等】

- ・ 廃棄物の排出原単位について、既存施設の原単位を用いるのではなく、効率性をより高めた新施設の計画を反映した排出原単位を用いることを検討すること。
- ・ 工事期間に発生する廃棄物について、工事初期、中期、後期ごとに予測を行うこと。
- ・ 定常状態の定義を明確にすること。

【温室効果ガス等】

- ・ 予測の基本的な手法にある「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver4.3.1」のどの算定式を用いるか具体的に明示すること。

【その他の項目】

- ・ 枚方側においては輸送経路が変更となるため、それに伴う交通量の変化について、十分な調査・予測を行うこと。
- ・ 造成工事等により斜面崩壊など想定される影響を示すとともに、その影響の程度の予測についても検討すること。